

1月23日（木） ドバイ（アラブ首長国連邦）

視察行程 1 1 : 「EXPO CITY」 視察

アハメド・ビン・サイード・アル・マクトゥーム殿下及び海外視察団団長よりあいさつの後、ドバイ万博の説明を受けた。

【ドバイ万博 EXPO・CITY 概要】

中東・アフリカ地域で初めての国際博覧会「ドバイ万博」は、2021年10月～2022年3月に開催された。世界中から延べ2,410万2,967人を動員し、会場は438ヘクタールという広大な面積である。その会場は、2022年10月に「EXPO CITY DUBAI」として革新的なスマートシティへと再開発された。インフラのおよそ8割を再活用し、サステナブルな街を目指している点が大きな特徴で、海外のパビリオンは解体されているが、建築美にすぐれたテーマ館などはそのまま保存されている。視察時は、一部のパビリオンをホテルにするため、内装工事をしていた。

EXPO CITYはドバイの将来の中心地として、マスタープランを基に持続可能で革新的な都市コミュニティを目指している。このマスタープランでは、住宅、オフィス、イベント会場、アメニティ、多くの緑地、スマートな交通手段、将来を見据えたインフラストラクチャを備え、35,000人以上の住民と40,000人の専門家を迎えようとしている。ドバイ国際空港から車で30分程度の南部に位置し、高速道路網で簡単にアクセスができる。ドバイメトロの専用地下鉄駅があるほか、バスの停留所は60を超えるため、非常にアクセスがしやすい。また、ドバイには4つの主要国際空港があり、EXPO CITYに近いマックフィルメント国際空港は、将来的にはエミレーツ航空の本拠地となり、世界最大の空港になると言われている。



EXPO CITY 内を見学する様子

【説明概要】

ドバイEXPOの開催経験、特にコロナ禍での運営について説明を受けた。ドバイEXPOは当初、来場者の割合を国外から70%・国内から30%と想定していたが、コロナ禍の渡航規制などがあり、国外から30%・国内から70%という戦略に変更し、来場者2,500万人という目標を達成することができた。特筆すべき点として、190カ国の参加を維持し、直接・間接の経済効果として今後20年間で400億USドルの価値創出を見込んでいる。また、EXPOを単なるイベン

トではなく、都市開発の重要な一環として位置づけ、長期的なビジョンのもとで計画を進めたことが強調された。さらに、10月に開催予定のCTサミットについても言及があり、大阪市への参加招待が提案された。特に印象的だったのは、1970年の大阪万博にアブダビが参加し、とても良い場所にパビリオンを設置していただいた経緯が紹介され、両国の万博を通じた50年に渡る繋がりが強調された。大阪への万博誘致が決定したBIE総会において大阪の関係者の席は、ドバイEXPOの誘致が決定した際のドバイの関係者の席と同じであったことも説明され、大阪とドバイの縁も感じた。

また、大阪・関西万博へのアドバイスとして、ドバイEXPOの実務的な体験を伺い、チケット販売では、最初はスロースタートであったが、毎日がセールスの機会だと考え、特定のコミュニティにとっても人気があるアーティストを呼ぶなど戦略的に販売した。毎週の飽きさせないイベント運営やオープニングセレモニーの工夫などを共有した。

【所感】

万博開催への不安に関する質問に対して、ドバイの関係者からは「なぜ始まってもしないのに心配をしているのか。結果は閉幕までどれだけ努力するかによるものであり、ドバイ万博が開幕後は家に帰る時間もなく閉幕まで走り抜けたことにより成功に終わった」と話してもらい、万博への考えを改めさせてもらった。また、ドバイ万博の会場がほぼそのままの形で再開発されていることでも学ばせてもらった。

視察日程 1 2 : 「ドバイ経済観光庁」訪問

ドバイ経済観光庁のシャハブ・シャヤンシニアマネージャーよりドバイの観光産業について説明を受けた。アラブ首長国連邦政府は、2031 年までに世界からの訪問者数目標を4,000 万人まで引き上げる計画を策定しており、観光客誘致に注力している。ドバイへの外国人観光客は、コロナ前と同水準に回復しており、コロナ前と比べて日本人旅行者も約2倍と堅調に戻り始めている。

ドバイでは、コロナ禍の間にもホテル開発を継続しており、現在15万6,000室、845施設を有しており、高級なホテルもあれば、比較的リーズナブルなホテルもあり、これは富裕層だけでなく、幅広く観光客を集めようとしているためである。また、世界の旅行者の潮流が体験重視となっていることを踏まえ、新たな観光素材やテーマでの旅行者



経済観光庁にてシャハブシニアマネージャー（奥左から4人目）らとともに

へのアピールも積極的に行っていく方針である。

特に注目すべき点として、25 年前の 15 マーケットから現在の 55 マーケットへの拡大が挙げられ、新規市場開拓の重要性が強調された。また、観光客の多様なニーズに対しては価格帯の幅を持ったホテルの設置やオーバーツーリズムへの対応、持続可能な観光開発についても意見交換した。

【所感】

今回の視察で各地を訪問したが、どこへ行ってもまちの美しさ、清潔さが印象に残った。観光地として、ごみ一つない綺麗な街を維持していることは、国策として行っているとのことであった。旧ドバイの写真フレームを贈呈いただき、何もなかった砂漠から世界有数の観光立国になっていることに感慨深いものがあった。大阪でも観光施策を進めていくのであれば、だれもが喜んでもらえるような方針を立てて、施策を進めるべきと考える。